

薬の窓口では、近年疾患に関する情報提供をしてきましたが、今回から数回にわたりお薬について知ってほしいこと（基本的なことから発展的なことまで）をお届けしたいと思います。

くすりとは



くすりは発熱などの症状を和らげたり、病原菌などの原因を取り除くことで、自然治癒力を助けます。また、病気の予防や診断にも使われます。

- ◆ 法律に基づいて承認を得たものが「くすり」として認められます。国はそれまでの非臨床試験・臨床試験などのデータから有効性、安全性、品質について確認・審査し、「くすり」を承認します。
- ◆ くすりは、販売されてからも、開発した製薬企業により、有効性・安全性が再確認されています。

くすりには主作用と副作用がある！

すべてのくすりは、「主作用」と「副作用」を併せ持っています。自分にあったくすりを正しく使うことで副作用の危険を減らすことができます。しかし予想出来ない副作用が出ることもあります。

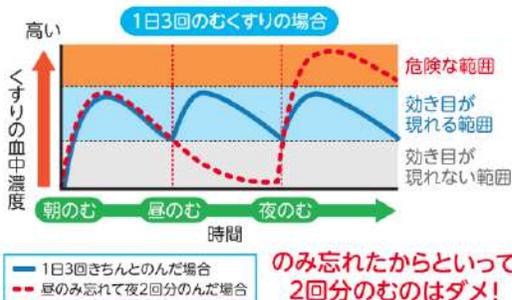


副作用の起こる主な原因

- ◆ くすりの性質によるもの（例：痛み止めで胃が痛くなる）
- ◆ 体質（例：アレルギー体質）のみあわせ
- ◆ 他のかすりと一緒に飲んだ
- ◆ 使い方（例：多く飲んでしまった）
- ◆ 予期できないもの（例：新しい副作用）

くすりの効き目の現れ方「くすりの血中濃度（けっちゅうのうど）」

くすりの効き目は「体の中のくすりの量」と関係します。血液にとけているくすりの濃度のことを血中濃度といいます。くすりは、適切な血中濃度（図の効き目が現れる範囲）になるようにそれぞれ用法・用量が決められています。

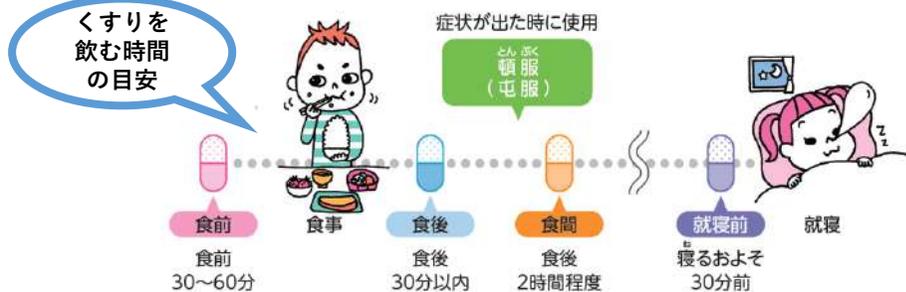


くすりの飲み方



使用回数、使用時間、使用量など、決められた使用方法がそれぞれ異なっており、医師・薬剤師の指示や、くすりの説明書に従って正しく使用しましょう。

- ◆ くすりは、血液に溶けて全身に運ばれます。効果を発揮するのに適した濃度（血中濃度）を保つ必要があるため、最も安全に、最大の効果が発揮される使用回数・時間・量（用法・用量）が決められています。それぞれのくすりの決められた使い方を守りましょう。



- ◆ 医療用医薬品は、一人ひとりのオーダーメイド。その患者さんに合ったくすりを、必要な量と期間を考慮して医師が処方します。
- ◆ また、くすりを他の人に譲ったり他の人のくすりを使ったりしてはいけません。病気の原因や症状はそれぞれ違うので、他の人には効果がなかったり、副作用が出たりするなどの悪影響が生じる場合があります。



くすりの説明書は大事



他人の薬は使わない

- ◆ くすりはお茶やコーヒー、ジュースなどでのまないで。

のみ薬は、原則として

1) コップ1杯の、2) 水かぬるま湯で、3) そのまま（錠剤をかんだりカプセルを外したりしないで）のみましょう！

- 水やぬるま湯以外だと薬の効き目が変わることがあります。
- また、少量だとくすりがのどや食道などにはりついて、炎症やただれをおこすおそれがあります。



くすりのことは薬剤師にご相談ください。